

—沖縄県—

中城湾港泡瀬地区における環境保全対策について

1. はじめに

沖縄県沖縄市東海岸に位置する中城湾港泡瀬地区では、国及び県が人工島埋立て造成事業を行っているが、希少な生物が多く生息する泡瀬干潟を含む周辺環境の保全に最大限配慮した上で、工事を進めている。今回は、周辺環境を紹介するとともに、我々が直面した問題及びその対策について報告する。



事業箇所と周辺環境

2. 周辺環境

泡瀬干潟には、トカゲハゼやクビレミドロといった絶滅危惧種が多種生息している。そのため、これらの種の保全計画を策定しており、工事でも慎重に行っている。

- 1) トカゲハゼの保全のため、稚魚の接岸・着底期である4～7月は海上作業を行っていない。
- 2) クビレミドロの保全のため、生息域周辺では海域の濁度基準がSS換算値=7.0mg/L以下と設定している（生息域外でもSS=11.0mg/L以下と厳しい値）。

また、人工島の南東沖にもずく養殖場が位置しており、濁りを拡散させないよう対策を行っている。

3. 問題と対策

1) 浚渫工事における汚濁防止膜撤去時の濁り拡散

潮流の速い海浜緑地箇所でのバックホウ浚渫工事において、汚濁防止膜の撤去後に、膜内に沈降していた浮泥が拡散している恐れがあった。

対策として、濁り自体を発生させない工法を検討した結果、浚渫工事に密閉吸引式底質除去装置を採

用し、施工を行った。

結果として、濁りがほとんど発生せず期待通りのものとなった。

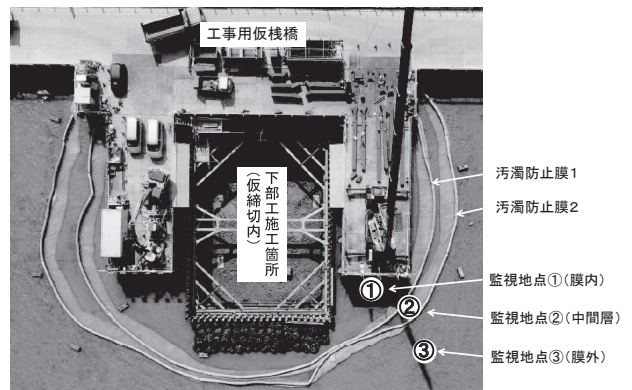


密閉吸引式底質除去装置（試運転状況）

2) アクセス橋梁工事箇所の濁度超過と工事中止

平成28年度、橋梁工事海域で工事着手前にも関わらず、濁度超過が収まらないまま工事中止が続いた。

対策として、汚濁防止膜の効果を再検討するため、汚濁防止膜を二重展張り濁度の推移を監視する試験を行ったところ、中間層の濁度が最も低い値を示した。これにより、膜外よりも中間層の濁度が低い場合、施工箇所からの濁りの流出はないと考えられるため、膜内・中間層・膜外3点の濁度監視の徹底を前提に、工事を再開した。



事業箇所と周辺環境

4. おわりに～今後の対策～

密閉吸引式底質除去装置での浚渫工事は、サンゴ礁等大きな底質に対する吸引が困難であったため、別途浮泥処理への利用を検討しているところである。

(沖縄県 土木建築部 中部土木事務所 竹市 浩二)